

令和5年度学校自己評価シート（本庄第一中学校）

<p>目指す学校像 (ミッション)</p>	<p>学園理念「響生」 ・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。 ・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。 教育方針 ・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心を持ち、学力・技術の向上に努める。 ・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。 教育目標 「高い学力の養成」「人間力の育成」「希望道路の実現」</p>
<p>本年度の目標</p>	<p>1 向上心を持ち、互いを認め高め合う集団の育成 2 地域社会から期待と信頼を得られる環境づくり（説明会・体験入学会の充実・地域への貢献） 3 「折れない心」「負けない体」「チャレンジし続ける精神力」を有した、愛され必要とされる若者の育成</p>

※番号欄は本年度の目標番号と対応させている。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価とは、関係対象毎の聴取または個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けたものとする。

出席者(聴取者)		
学校関係者(法人 監事・評議員等)		3名
生徒		2名
事務局		2名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価 (令和6年3月31日現在)			実施日令和6年5月末日	
番号	課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	○生徒各位が将来を見据えた進路選択ができるよう日々のやり取りの中で意識改革を行う。 ○上記目標設定を果たすための具体的方策を各人に考えさせ、確認し改善の促しを行う。 ○授業・復習課題・演習を通し、反復学習を徹底し基礎学力の定着度を高め、演習力を身に着けさせる。	進路実現への取組	○生活指導・学習指導・行事等、学校生活の様々な場面で一人ひとりが自らの将来を想像し、進路実現に向けて主体的に取り組む環境を創出する。 ○基礎学力習得に向け、授業内容について復習課題を提示し家庭学習を習慣化する取組を行う。 ⇒復習課題の定着度を復習テストで確認 ⇒未定着内容を再度学習する流れを徹底 ○希望進路獲得に焦点を絞り、1・2年次より高校入試を意識した演習授業を行う。3年次年は解答時間を意識し問題を解くスピードをあげる演習授業を実施。 ○生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい進路指導の実践。	○一人ひとりが主体的に生き生きとした生活を送り、学校生活への満足度が高いか。 ○継続的に復習テストを実施した結果、十分な学力定着が図れ、主体的な学びの姿勢が育成できたか。 ○前年実施の模擬試験結果と本年度の実績を比較し、各自の試験偏差値平均のアップが図れているか。 ○進路を意識した活動を生み出す効果的な指導を行えたか。 ○各人の進路目標の実現ができたか。	○生徒との日々のやり取りだけでなく、学期ごとに実施しているアンケートにおいても学校生活への満足度（保護者からも）は一定以上の評価を受けることができている。 ○授業⇒復習テスト⇒再テストでの後追い学習を徹底させることで模試においても確かな成績の向上が確認できた。 ○特活でのキャリア学習だけでなく、日々の授業時にも教科担当から進路意識を喚起する働きかけを行い学習の意義を各生徒に伝えることで意欲的に進路実現に望んでいる様子が見える。 ○希望進路実現100%には至らなかったが、チャレンジ校合格を複数の生徒が果たすなど複数予想以上の成果を上げることができた。	A	○学年によって『進学』に対するモチベーションの温度差がある。改善の為に生徒・保護者各位の希望をしっかりと確認し、適切なアドバイスを行っていく。 ○上記策が徹底・奏功できるように学活・各授業時間内で適切な時間・質・量の配りを入れ、まずは生徒意識の改革を行う。 ○生徒だけでなく、保護者に対しても進学情報についてミクロとマクロの両方の観点から社会現状を伝え、進路に対する意欲を喚起する。 ○生徒の進路実現について、早い段階からより個々人の学力にあった進路方向について助言を行う。	○進路実現に向けた取り組みについては達成度を鑑みてもおおむね評価できる。 ○特活を捉える姿勢を常に持ち、時代に即した指導方法を情熱を持って何事にも取り組める人材を育成に注力して欲しい。 ○家庭では1年次と比べ、子ども自ら意識した生活を送れるようになった。 ○学習面においても意欲的に取り組む様子もうかがえるようになった。 ○三者面談や毎日の学習の場面で個々の目標に応じた的確な指導が行われていることが保護者に伝わっている。 ○希望制放課後/土曜講座の開設や個別指導等、個々のニーズに則して学習サポートがあり安心して学習に取り組む、進路を実現することができた。 ○在学中を通して効率的な学習スケジュールが提案、管理が行われると同時に適宜助言などがあり、学力伸長を実感しながら3年間を過ごすことができた。
	○家庭学習習慣化の徹底・継続指導、アプローチ方法の工夫。 ○学習に対する更に意欲的な取組への動機付けと個々の目標とする学力獲得を実現できる指導方法の創出。 ○生徒の理解度を高める授業の実践および学力定着のための学習サイクル作り。	授業改善の取組	○学習内容定着のため、家庭学習の習慣化を徹底する。アプローチ法の工夫・声掛けを継続し、保護者の協力を仰ぎ、教師・生徒・保護者のトライアングル関係を強化する。 ○体系的に生徒の学力アップにつながる効果的な指導を展開できるように、学級担任・教科担当・学習指導係の打ち合わせを継続して実施する。 ○授業アンケートの実施により授業者の目的達成を確認、次の課題を明確化し改善点を確認する。	○家庭学習として提示した復習課題の提出状況は十分だったか。 ⇒復習テスト実施結果の数値 ○生徒の授業に臨む姿勢や反応は良かったか。 ○教員の授業準備や授業運営は質の高いものであったか。 ○授業に対する満足度は高まったか。	○家庭学習を課す理由とそこからもたらされる結果の因果関係をしっかりと論じ、提出を促すことができた。結果として復習テストの結果にも表れていた。 ○授業時間中、聴く・見る・書くといった動作をメリハリを持って展開することができ、教員各人の準備もよりブラッシュアップされたものになった。 ○授業の「楽しさ」の部分の演出もでき、生徒各位の表情だけでなくアンケートの結果からも高い満足を提供できたと推察できる。	A	○いずれの策も継続・徹底できてこそ成果につながるものであるため、全教職員一丸となり「凡事徹底」の意識の下、日々の業務に取り組む。 ○各学期ごとに、方策の進捗状況を確認する場を設け、アンケート等の分析を定期的に行い活かしていく。	○学習者が明確な目的意識を持って学習活動に臨めるよう配慮がなされていることは高く評価できる。 ○成長段階に併せ、学習目標と学習計画を家庭とも共有することでチーム体制で生徒をサポートできる環境は今後も継続して欲しい。 ○進路目標が確立していない生徒へのアプローチが課題。学校の指導と連動し、家庭においても進路活動が見据えたサポートができることの良い。 ○BLEND(校務支援システム)活用により学習についてのお知らせやテスト範囲等を保護者もタイムリーに把握することができ、子供への声かけができた。 ○学習内容提示⇒演習⇒復習指示⇒定着確認テストのサイクルが確立され、知識の定着に焦点を充てた授業の組み立てに満足している。 ○生徒が意欲を持って授業に取り組めるよう授業コーディネイトに工夫があった。
2	○学園ホームページや各種SNSを活用し、本校の取り組みや教育活動、生徒の活躍を広く発信する。 ○私立中学ならではの教育方針および教育活動、教育体制についての情報発信とPR。 ○時代に対応したPTA活動のあり方と内容の構築。	開かれた学校づくり	○学園ホームページや各種SNSを活用し、本校の取り組みや教育活動、生徒の活躍を広く発信する。 ○在校生保護者や家族をはじめ地域の皆様に在校生の活躍を披露できる機会を計画すると同時に効果的な周知を展開する。 ○時代に即したPTA組織編成と活動内容のアップデートを行う。 ○地域社会への教育理念と指導体制周知および還元を目的とした取組みの継続と深化。	○学園ホームページの閲覧数の増加。 ○各種SNSのフォロワー数の増加。 ○ホームページやSNS等を媒体とした学校行事やイベントへの参加者数の増加。 ○PTA活動参加者数とフィードバック数の増加。	○学園ホームページを活用し学校生活の様子、行事報告、および入試イベント等の情報をリリースした。閲覧数は毎月100~350アクセス。 ○学園広報係が主体となり高校生スタッフによる広報チームを編成し、学園行事や部活動等様々な取組を学園オフィシャルSNSを媒体に多方面に発信、フォロワー数を増加することが出来た。SNS媒体Instagram/YouTube/TickTokの3種展開と拡大することができた。 ○学校行事やイベントPRを行い行事等への在校生保護者参加者数が増加。入学志望者数増につなげるには至らなかった。 ○外部講師を招いて保護者対象進路講演会を実施。参加率 30%を達成。講演内容についても高評価を得た。 ○PTA組織と活動内容のアップデート実施。参加しやすい体制に。	B	○本校に対する認知度を高め、生き生きとした生徒の活躍を保護者、地域社会にPRすることを目的とした。学園ホームページのリニューアル。 ○在校生保護者のみならず、地域社会の皆様や入学希望者が行事等で多く足を運べる広報活動の策定。 ○在校生保護者の教育理念や学園取組についての理解深化とサポート体制強化。	○学園ホームページの活用についてはコンテンツや内容について更に研究し、まずは学園関係者の閲覧を促す工夫が必要令和6年度のリニューアルで飛躍的に広報活動が充実することを期待したい。 ○InstagramやTikTok、YouTube等のSNSをツールとして学園全体のみならず、生徒会や部活動での生徒の活躍が伝わった。 ○公式ホームページでは生徒の活動の様子や学校の取り組みなどを更新頻度も高く取り上げ、保護者がタイムリーに学校の様子を知ることができる。 ○学校の良さを更に地域の方々にも知っていただきたい。様々な行事の更にアピールできれば良い。
	○保護者、小学生、地域への生徒の活躍や活動、学校の取り組みなどの積極的な情報提供。 ○学校の考え方、計画、実際の諸活動を知らせる。 ○生徒募集行事への参加者を募る。	生徒募集広報活動	○年間3回「本庄第一通信」を発行。 ○様々な媒体（ホームページ・Instagram・LINEなど）を通じて認知度を高め、各種イベントへの参加促進のために効果的な情報発信を行う。 ○オープンスクール、学校説明会、入試説明会、入試対策講座等の生徒募集行事の機会を活用し本校の認知度アップに繋げる。 ○ホームページを活用し生徒の活躍をタイムリーに発信し本校の教育活動をPRする。 ○部活動などをはじめとした生徒の様子を様々なアプリ等を利用して、幅広く情報を発信する。 ○ミライコンパスシステムを利用しての情報発信を図る。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できたか。 ○様々な媒体を通じての効果的な情報発信ができたか。 ○オープンスクール、学校説明会、入試説明会、入試対策講座の参加者数が昨年比増となったか。 ○ホームページの情報を適宜更新し、学校生活の様子や、生徒の活躍をわかりやすく知らせ、閲覧者が増加したか。 ○ミライコンパスシステムを利用しての情報発信ができたか。	○計画通りに「本庄第一通信」が発行できた。 ○来校者のアンケートから、ホームページや各部活動のInstagram等を見て、来校したご家庭も多くあったので効果的な情報発信ができた。 ○各募集行事で昨年度の参加者人数を上回ることができなかった。 ○入試対策講座の参加者は、概ね受検に繋がることができた。 ○ホームページの情報を適宜更新し、閲覧者を増加させることができた。 ○ミライコンパスシステムを利用しての情報発信ができた。	C	○受験・入学者の減少。 ○学習・部活動・各行事における生徒の取り組み、活気あふれる様子を様々な広報媒体（ホームページ・Instagram・LINE等）を活用し、周知できるようにする。 ○多くの小学生（クラブチーム等）での活動をしている小学生も含む）が足を運びやすい行事運営をこころがける。 ○募集行事の内容を精査し、参加してくれた家庭（保護者・本人）の満足度をあげる。	○令和5年度生徒募集活動についての分析を徹底して行い、反省点を踏まえた戦略的な働きかけが急務と感じる。 ○小学生向け行事（学校説明会・オープンスクール・入試対策講座・入試説明会）への参加者数低迷に対して打開策を講じたのか、譲じなかったのが厳しく感じるべきポイント。 ○令和6年度入学者数は減少となったものの、地域の方々や子供を持つ保護者からの反応は大きく、今後を期待できると思う。 ○PTA活動や部活動保護者会活動を通し、学校や保護者間のコミュニケーションが過度にあり、学校の様子や教職員の姿勢を感じることができた。保護者としても生徒募集活動に貢献したいという思いがある。 ○卒業家庭の協力を得て、地域の方々から本庄第一の良さを周知し、オープンスクール等への参加を促し、実際の学校生活を体験してもらおうと良いと思う。指導の質の高さを口コミの力を生かして広く周知して行くべき。
3	○何事にも積極的に取り組める向上心と自立心を有する生徒の育成。 ○場面に応じふさわしい振る舞いのできる生徒の育成。 ○健康で安全な中学校生活にふさわしい基本的生活習慣の徹底。 ○他者との関わりやコミュニケーションについて学び、いじめを未然防止する。 ○スマートフォンやインターネット等を利用する際のネットリテラシーの向上。	進路実現への取組	○生徒会活動（委員会活動含む）への積極的な参加を促し他者貢献の精神や協調性、そして自律心などを育てる。 ○体育や部活動、校外活動（学校行事）を通して継続する力を養い、目標達成や達成するための力、挑戦し続ける力を育てる。 ○教員からの声掛けなどを通して挨拶や規則がしっかり守れる生徒を育てる。 ○生徒会を中心とした挨拶運動などを実施。 ○いじめ基本方針に基づいた取り組み。（いじめ実態把握アンケートの実施3回/学校生活についてのアンケート2回/いじめ撲滅キャンペーン実施など） ○情報セキュリティ講座・防犯講座などの開催。	○部活動や生徒会活動を通じて積極的に物事に取り組むことができるようになったか。 ○身だしなみ、言葉遣い等指導が必要な生徒がいたかどうか。 ○スクールバス・電車などの乗車マナーが守れたか。 ○場面や個々の発達段階に応じた教員からの声掛けの徹底ができたか。 ○生徒、教員ともに気持ちの良い挨拶を交わすことができたか。 ○アンケート等の取り組みや教職員の声かけ等啓発指導が徹底しいじめの未然防止・早期発見・早期解決ができたか。 ○講演会や日々の生活指導等を通してSNSおよびインターネットトラブルを未然に防止できたか。	○部活動や生徒会活動を通じて自立自覚の姿勢を見つけ、能動的な取り組みが見られた。 ○身だしなみ、言葉遣い等、相手に敬意を払いその場にふさわしい行いが見られた。 ○スクールバス・電車などでマナーを踏まえ行動した。 ○個々の成長を促すため教員から声掛けを行った。 ○生徒、教員ともに相手の目を見て爽やかな挨拶を実践した。 ○アンケート等の実施により、いじめ防止の意識を高め、問題行動を早期に把握することが出来た。	B	○素直で明るく、何事にも自主的に取り組める自立心を持った生徒の育成に焦点を合わせ、教育活動を継続する。 ○発達段階に合わせた様々なアプローチからマナーやルールを身に付け社会から必要とされる生徒の育成。 ○社会生活の基本となる挨拶や規則正しい生活等の徹底。 ○いじめ問題の未然防止、早期発見、早期解決。 ○ICT化社会で活躍できる人材に不可欠なクロームブックやスマートフォン等のツールを正しく活用できる力を育成。 ○オンラインでのトラブル（Line・SNS・ゲーム等）に巻き込まれないように、日ごろからの指導を継続する。 ○保護者から自立し、自分自身で未来を切り開く自立型人間の育成。	○社会生活の様々な場面で刻々とデジタル化が進化する中で、生徒たちを危険に晒すことがないよう常に先回りして指導にあたる必要がある。 ○保護者の立場から、教師からの丁寧な声掛けもあり、在学中から大人になっても必要なマナーを身に付けている事を実感している。 ○日頃より個々の生徒への手厚い指導があり、安心して子供を預けることができた。 ○生活指導上の問題が生じた場合、家庭としてどのように対応したらよいか等、PTA活動等でも取り上げ、保護者間の子育てネットワークを構築する等、PTA役員の立場から働きかけを行ってきたい。 ○生徒の立場から指導者が熱意と愛情を持って、社会に適應できる能力を身に付けるべく真剣に指導してくれたことに感謝している。